

第 6 2 9 回 放送番組審議会

議事録

2026年5月19日(火)



第 6 2 9 回 放送番組審議会

1. 日 時 2026年5月19日(火) 午後1時00分

2. 開催場所 テレビ岩手6階 大会議室

3. 委員総数 9名

出席委員 6名

委員長 岩館 めぐみ

副委員長 菅原 和宏

委員 岡安 大地

委員 大森 健史

委員 渡邊 里沙

委員 立花 工

欠席委員 3名

委員 中野 美知子

委員 保 和衛

委員 千葉 幸子

社側出席者

福士 千恵子 代表取締役社長
池田 学 専務取締役経営企画局長
小形 恵一 取締役報道制作局長
廣嶼 文樹 報道制作局制作部長
佐々木 隆士郎 編成局編成部
北田 仁美 編成局業務部
大友 遥 編成局業務部
三浦 悠実香 営業開発局営業部

事務局

桑島 広実 (執行役員編成局長)

4. 議 題

1. 5/2 (土) 25:25~25:40 「ぼくのケツは青い」

2. その他

5. 資 料 (資料として以下のものを配布)

- ・視聴者からのご意見

6. 意見

【委員側意見】

○タイトル画面にネオンやピンク色が使われており、いやらしさを感じて番組を見ない人もいるのではないかと感じた。「夜の保健室」は突っ込んだ内容で、学校も親も教えてくれない事をあえて放送で伝えてくれるのはありがたいことでもある。

○随所にくださった演出があり、社内の若手制作者たちが自由に番組をつくっていることを感じた。岩手を出て東京で奮闘する若者の姿を描くことは岩手の視聴者を東京に誘引することにつながるかもしれないのだが、制作者の意図はどのようなところにあるのか気になった。

○番組は配信もされているが、スマートフォンで見ると画面の文字が小さくて見えない箇所もあった。番組に出演した若者たち等身大の姿が、若者の視聴者に「自分も何かに挑戦してみよう」と思わせ、番組が若者たちの背中を押すことにつながっていくのではないかと感じた。

○テレビ岩手で久々の自社制作のレギュラー番組とのことだが、どのような意図で制作を始めたのかを伺いたい。若者を応援するという番組の趣旨において、ターゲットとなる「若者」とはどのような定義なのかも伺いたい。

○記憶に残りインパクトを与える番組名で、良い狙いだと感じた。「ぼくケツ」という省略した呼び方も、番組が長く親しまれるための愛称としてよいと思った。「イケメシ」のコーナーでは、編集のやり方次第でもっと視聴者の共感を得られる作りになったのではないかと感じた。

○15分の番組で3つのコーナーがあり、短い時間でも見ごたえがあった。東京で頑張る岩手出身の若者に焦点を当てることは、地方の番組ならではの面白いと感じた。前回の放送を見ていなくても違和感なく見られる作りになっていて、3回シリーズの構成も程よい配分であると感じた。

【局側意見】

○テレビ岩手と若い世代の人達が接するきっかけを作っていきたいという思いで、この番組をスタートさせた。視聴した若い世代の人達が、「自分も一歩踏み出してみたい」と思う番組にしていきたい。

○番組のターゲットとする「若者」は、年齢の範囲を限定するものではなく、「自分は若者だ」と思う人であると考えている。そのような方々に、背中を押すメッセージを伝えられる番組でありたい。

○今後も試行錯誤しながら、番組の趣旨に沿ったコーナーを考えていきたい。

7. 審議機関の答申または意見の概要公表の方法及び年月日

①自社放送 4月30日(木) 11:25~11:30 「あなたと歩むテレビ岩手」

②テレビ岩手本社での据え置き